

地域の会 質問・意見書

日付： 2024年 2月 17日

氏名： 飯田耕平

東京電力、資源エネルギー庁、新潟県 柏崎市、刈羽村 に対する 質問 ・ 意見 (いずれか○)

関西電力は、昨年10月に使用済み燃料ロードマップで、原発にたまり続ける使用済み燃料の県外搬出や中間貯蔵施設誘致の動きとともに、福井県内の原発施設に乾式貯蔵施設を設置する計画を示しました。このような動きと関連して、関係者に質問を行います。

1. 東京電力に対する質問

(1) 使用済み核燃料の移動、県外移送について

東京電力は、柏崎刈羽原発の再稼働に向けて停止中の6・7号機の燃料プールからの使用済み燃料の号機間移動や県外の中間貯蔵施設への移送を検討されていると思います。柏崎刈羽原発構内における各号機の使用済み燃料の貯蔵状況と今後の移動、県外への移送計画、行程について教えてください。

(2) 使用済み燃料と乾式貯蔵施設、中間貯蔵施設について

現在核燃料サイクルが計画通りに機能していません。柏崎刈羽原発で再稼働後に使用済み核燃料が増えた場合、原発構内において乾式貯蔵施設の設置、中間貯蔵施設についてどのように考えているか伺います。

2. 資源エネルギー庁に対する質問

日本の核燃料サイクルは、使用済み核燃料の再処理工場のトラブル続きで稼働していない、核燃料加工施設は建設中で未完成、MOX燃料を使う予定の実験炉「もんじゅ」は事故続きで中止に追い込まれ、全く機能していません。

こうした現状を考えると、再稼働で増え続ける核燃料は原発構内に貯まる一方になります。今後の見通しも立たない中での再稼働は許せません。資源エネルギー庁として現状の認識を聞かせてください。

3. 新潟県、柏崎市、刈羽に対する質問

東京電力が再稼働後、県外への移送ができないような事態が発生した場合、構内に使用済み核燃料が蓄積されてきます。そのような場合、乾式貯蔵施設や中間貯蔵施設を設置、建設する旨の連絡があった場合の認識について教えてください。